

「宙<sup>ソラ</sup>のかけらたち 詩人宗左近展」に寄せて

— 宗左近と〈ふるさと〉 —

館長 今川 英子

わたしの〈ふるさと〉は、戸畑である。もう少し広げて考えてみれば、中学のあった小倉も〈ふるさと〉のなかにふくまれるであろう。(略) / 小学生と中学生の頃、わたしは〈ふるさと〉がひどく嫌いであった。その理由ははっきりしていた。そこが北九州工業地帯のまんなかであったからである。

宗左近(1919～2006)が七十歳のころに書いた随筆「ふるさと」の冒頭です。続いて工業都市として発展する〈ふるさと〉は効率第一主義の原理に支配され、自然も人間も破壊され顧みられることもなく、そこからの脱出ばかりを考えていたことや、それから半世紀以上たった今でも、〈ふるさと〉に親しめないでいることが綴られています。

それから十年後に刊行された自伝的要素の強い一行詩集『響灘』の巻末「覚書」には、故郷に言及して次のように語っています。

帆柱山以下阿蘇山に及ぶ固有名詞は、日明、紫川、青島などすべて実在の場所のものです。そして、むろん沖の端も、響灘も。／書き写しながら、深く感銘しました。これらの名前そのものが、宇宙詩なのです。何という生々しい形而上性をもつ子守唄がわたしを育んでくれたことか。

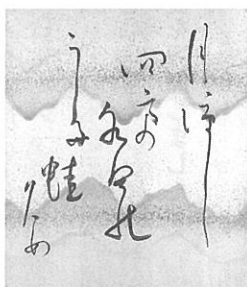
これは紛れもなく、故郷に対してかつて抱いた一時代の表層的な工業都市の印象を超えて、根本的に自分を宇宙の精気に繋いでくれていた産土<sup>うぶつち</sup>の地としての〈ふるさと〉賛歌で

す。十八歳で〈ふるさと〉をあとにして以来、北九州には数えるほどしか帰郷しませんでした。その〈ふるさと〉観は、晩年に至った作者のなかで微妙に屈折しつつも、望郷の念と相俟って根源的な宇宙観の中で捉えなおされようとしています。

宗左近さんにお目にかかったのは亡くなられる一年前。文学館開設のためのご協力を仰ぎにまいりました。予め幾つかのご提案をご用意され、郷土を愛するゆえに北九州に貢献されたいお気持ちを吐露されました。前出「ふるさと」は次の言葉で結ばれます。

昔の効率第一主義の〈ふるさと〉が、これから非効率第一主義の〈ふるさと〉、つまり文化の〈ふるさと〉になるのは夢なのであろうか。もしも、そのためのプロジェクトが〈ふるさと〉に設けられるのであるならば、わたしは喜んで千葉県から手弁当で参加させてもらいたい、もう一人の〈故郷喪失者〉をうまないために。

月の美しい夜は、地球、天体、銀河が一繋がりになって雄大な宇宙を実感させてくれます。〈ふるさと〉は今や、文化を育む環境未来都市として生まれ変わろうとしています。



月涼し四方の水田のうた蛙  
杉田久女(1890～1946)色紙

目次

- 「宙のかけらたち 詩人宗左近展」に寄せて ..... 1  
— 宗左近と〈ふるさと〉 —
- 第16回特別企画展 モンゴメリと花子の赤毛のアン展 ..... 2  
～カナダと日本をつないだ運命の一冊～
- 開会式+ ギャラリートーク 村岡美枝(翻訳家) ..... 3  
高橋由香(プリンスエドワード島州政府観光局)
- 村岡恵理さん講演会 「村岡花子と『赤毛のアン』の世界」
- ワークショップ 「野の花の刺しゅう教室」
- キヨノサチコ絵本原画の世界 みんな大好き! ノンタン展 ..... 4
- 親子でノンタンの「手づくり絵本」を作ろう! ..... 5
- ノンタンのお話よみきかせ会
- ノンタンに会いたい! ～握手会&写真撮影会～
- 北九州のディテール展 ..... 6
- ギャラリートーク 「ディテールでみる近現代」
- 平成26年度(前期)文学館セミナー
- 子ども俳句講座 ..... 7
- 第一回宗左近忌
- 新資料紹介 宗左近 自筆原稿「千恵子への遺書」(未発表作品)
- 第18回特別企画展 ..... 8
- 宙のかけらたち～詩人 宗左近展～
- 資料寄贈者・提供者、受贈雑誌一覧



北九州市立文学館 第16回特別企画展  
 モンゴメリと花子の

# 赤毛のアン展

*Anne of green gables*

2014 6.14<sup>sat</sup> → 7.13<sup>sun</sup>  
 ～カナダと日本をつないだ運命の一冊～



今も世界中の人々に愛される小説「赤毛のアン」。原作者のL・M・モンゴメリと日本語訳者の村岡花子ーアンを生んだ二人の女性作家を紹介する企画展を開催しました。

ドラマ「花子とアン」のヒットに加え、今年にはモンゴメリの母国で、アン・シリーズの舞台でもあるカナダと日本の修好85周年にあたります。これを記念する本展は村岡花子の故郷・甲府を皮切りに全国を巡回しますが、ドラマの放映中、九州での開催は当館のみとなりました。

日本初公開となるモンゴメリのスクラップブックや、アン・シリーズの直筆原稿、レース編みの手芸品、バラのつぼみ模様のお茶道具など、カナダから出品された貴重資料は大きな見どころでした。また、村岡花子資料では、『赤毛のアン』を翻訳するきっかけとなった原書『アン・オブ・グリーン・ゲイブルス』を展示したほか、ドラマでもフィーチャーされた柳原白蓮との友情書簡には常に人だかりが。ほか、本展では充実のギャラリーストックも展開しました。

市外はもとより、他県からお越しの方も多く、観覧会入場者は、過去最高の8000人越えを記録。会期後半になるにつれ、賑わいが増しました。何度も足を運んでくださった方など、

熱心なアン・ファンの皆さまに大感謝です。

【主催】北九州市立文学館、NHK北九州放送局、NHKプラネット九州、赤毛のアン展実行委員会

【協賛上映】「アンを探して」ほか2本立て（小倉昭和館）

展示資料点数 約1600点

### アンケート

・「花子とアン」を見て興味をもって来ました。とても楽しかったです。

(15歳以下・女性)

・中学生の時に「赤毛のアン」を読んで以来モンゴメリのファンでした。今NHKで「花子とアン」を見てると自分の若いころを思い出したり、時代の移り変わりが分かってとても楽しいです。

(60代・女性)

・素晴らしく、期待以上に良かったです。

(50代・男性)

・「赤毛のアン」のファンだったので、作者・訳者の生い立ちや環境を知ることが、この物語をよりいっそう好きになりました。貴重な展示品も多く、とても満足しています。

(30代・女性)

・とても良かったです。来て良かったです。妻はもともと村岡花子さんの訳した「赤毛のアン」が好きでしたし、私自身は「花子とアン」をテレビで見て好きになり今回来ることになりました。

(40代・男性)

**開会式+ギャラリートーク**  
**村岡美枝(翻訳家)**  
**高橋由香(プリンスエドワード島州政府観光局)**

平成26年6月14日

参加自由の開会式は、さすが足りない大混雑ぶり。うれしい悲鳴をあげました。村岡花子の孫で翻訳家の村岡美枝さんより監修としてごあいさついただいた後、花子の親友・柳原白蓮とゆかりの深い東筑紫学園宇城照耀理事長からご祝辞を頂戴しました。またドラマの効果で入場者が激増したという飯塚市の伊藤伝右衛門邸からは瀬下麻美子観光アドバイザーが開会を祝ってくださいました。最後は北九州市小倉少年少女合唱団の歌声です。アンとおそろいの三つ編みスタイルでドラマ主題歌「にじいろ」など3曲を披露してくれました。

大盛況の開会式終了後、ギャラリートークを行いました。プリンスエドワード島州政府観光局日本代表の高橋由香さんよりカナダから出品されたモンゴメリの資料について解説いただきました。



高橋由香さん

その後、村岡美枝さんから村岡花子資料の見どころをお話いただきました。

美枝さんは花子訳を引き継ぎ、アン・シリーズの最後の作品「アン」の想い出の日々(新潮文庫)を翻訳されていますが、本展では、モンゴメリによるその最期の原稿も展示されました。

たいへんな人気で立ち見のお客様も多くいらっしゃいましたが、予定時間を超える心からのお話に、みなさん最後まで熱心に耳を傾けられました。



村岡美枝さん

**村岡恵理さん講演会**  
**「村岡花子と『赤毛のアン』の世界」**

平成26年7月4日

北九州芸術劇場小劇場 特別企画展開催を記念し、作家・村岡恵理さんの講演会を行いました。

村岡さんは、ドラマ「花子とアン」の原案となった『アン』のゆりかご村岡花子の生涯』の著者です。姉で翻訳家の美枝さんとともに、祖母・村岡花子を記念する「赤毛のアン記念館・村岡花子文庫」をされ、本展の監修もお務めいただきました。



村岡恵理さん

ドラマの大ヒットもあり、講演会への関心は募集段階から最高潮！定員200名の会場になんと1800名を超すご応募をいただきました。(ご期待に沿えなかった多くの皆さま、本当に申し訳ありません)

当日は、多くの写真資料を用いながら、ドラマだけでは分からない村岡花子の実像についてお話いただきました。特に、村岡花子が大きな影響を受けたにもかかわらず、ドラマには登場しない片山廣子(歌人)と広岡浅子(実業家)について、魅力的な人たちのでぜひ知ってほしい、とされました。二人については参加者の関心も高かったようです。

講演会の後はサイン会。皆さん、アンや村岡花子に対するそれぞれの想いを胸に長い列を作られました。

アンケート  
 ・素敵なお話でした。このあと、久しぶりに少女に戻り、「赤毛のアン」を読み返そうと思います。(40代・女性)

・花子さんと恵理さんの小さな大きな思い出話に胸があつくまりました。花子さんの日本、いいえ全ての子ども達への愛情の深さもあらためて感動しました。私も息子を亡くした身として魂を揺さぶられました。ありがとうございました。(60代・女性)

**ワークショップ**  
**「野の花の刺しゅう教室」**

平成26年6月28日、7月8日

関連ワークショップで刺しゅう教室を開催しました。初回は6名の小学生が参加してくれました。

講師の小柳出せい子さん、藤田冴子さん(いずれも戸塚刺しゅう協会)が用意してくれたキットから、お気に入りの図案に挑戦します。「刺しゅうはまったく初めて」という方が多く、和気あいあいの空気の中にも、真剣な作業が続きました。

みんな、モンゴメリの腕前に近づいたでしょうか。





平成26年 7.19(土) ▶ 8.31(日)



夏休み期間にあわせて、特別企画展「キヨノサチコ絵本原画の世界 みんな大好き! ノンタン展」を開催しました。この展覧会は2011年、ノンタン誕生35周年記念に企画された巡回展です。絵本だけではなくアニメーションにもなったノンタンは、今も子どもたちの心を惹きつける大人気シリーズ。わんぱくなノンタンが繰り広げるお話と覚えやすくりズミカルな文章が魅力です。

開会式には、キヨノさんのご長女・美佳さん(ハワイ在住)がご列席くださいました。ご祝辞で、ノンタンは美佳さんにとって子供のときには兄弟のようであり、次第にお母様キヨノサチコさんの分身のように思われるようになったとお話いただきました。

展示では、ノンタン誕生のきっかけとなった「あかんべぎつね」の原画(初公開)をはじめ、シリーズ最初の作品『ノンタンぶらんこのせて』から、遺稿を元に2011年に刊行された『ノンタンスプーンたんたんたん』まで、約120点の原画が並びました。原画の魅力は、印刷では表現できない色彩の鮮やかさです。特に目をひく色は、キヨノさんがこだわりをもたれていた「赤」。自動車、ギター、はぶらしなどノンタンの大事な持ち物はほとんど赤で描かれ、ノンタンカラーのひとつです。また、ノンタンの毛並みを表すた



め、面相筆で描かれた柔らかい輪郭の筆づかいも見られました。

その他、69〜70年に漫画雑誌『少女コミック』に連載された作品「ララとドラ」を展示。当初漫画家を目指していたキヨノさんの一面を見ることができました。ケース内には、直筆のラフスケッチやアイディアスケッチノート、画材セットやペン類、筆、絵の具、パレットなど遺愛品が並びました。ラフスケッチにはレイアウト案や色の指定が細かく指示されており、絵本作りの過程をご覧いただけました。

キヨノさんは生前、「自分がいなくなっても、子どもたちのなかでノンタンはずっと生き続けてほしい」と願いました。その願いどおり現在も根強い人気を誇り、愛され続けていることが実感できる展覧会でした。

展示資料点数 約190点

## 親子でノンタンの「手づくり絵本」を作ろう!

絵本作りのイベントを開催し、全4回、あわせて57組の親子が参加しました。講師は、原賀いずみさんと北九州インタープリテーション研究会の皆さんです。

「ノンタン〇〇へ行く」というテーマで、まずはストーリー作りから始めました。「どこにお出かけしようか?」と親子で話し合い、海やキャンプ、お祭りなど実際に夏休みに遊びに行った思い出の場所が次々に挙がります。なかには、歯科医院で虫歯を治療したお話を考えた子どももいました。

次に、作ったお話にあわせて、それぞれのキャラクターの顔と体のパーツを貼り合わせ、表情を描いていきます。パーツをハサミで切る作業は手間がかかるため保護者が担当し、子どもたちは貼る作業に専念。さらに、それぞれの場面に覚えやすくリズムカルな言葉を付け加えていきます。2時間後、世界にたった一冊の絵本を完成させ、子供たちには満足の笑顔が見られました。

アンケートでは、「自分で考えてお話を作ることができ楽しかった」、「親子でゆつくり何かを作る機会がなかったので、いい経験だった」などの感想が寄せられました。



「手づくり絵本」の教室風景

## ノンタンのお話よみきかせ会

ノンタン絵本の読み聞かせ会を、あわせて6回行いました。おはなし会グループひなたぼっこ、ムーミン、森のおはなし会の3グループが交代で担当、毎回子どもたちは目を輝かせて聞き入っていました。

〇〈おはなし会グループひなたぼっこ〉さん・・・『ノンタン おねしょでしよう』や『ノンタン あわぶくぶくぶくぶくぶく』など、子どもたちが答えを考へて楽しめる絵本を読んでいたできました。特に『あわぶくぶくぶくぶくぶく』は大人気。石けんの泡のなかに誰が隠れているのか答える大きな声が響きました。また、『ノンタン遊び図鑑』や布絵本もご紹介いただきました。



写真は〈おはなし会グループひなたぼっこ〉さん

〇〈ムーミン〉さん・・・リコーダーの演奏や手遊び、パネルシアターなどを取り入れて、賑やかな会になりました。『あかんべノンタン』、『ノンタンぶらんこのせて』などノンタンのわんぱくぶりが楽しい絵本を紹介し、小さな子供たちも大喜び。また、指人形などで和やかな雰囲気づくりを工夫してくださいました。

〇〈森のおはなし会〉さん・・・『ノンタン あわぶくぶくぶくぶくぶく』をパネルシアターにして演じたり、ノンタンの花火大会」と題して、うちわを使ったいろいろな形の花火が打ち上がるお話をオリジナルで披露してくださるなど、楽しいしかけいっぱいのお会でした。『ノンタンぶらんこのせて』では、途中で歌をはさんで皆で歌いました。

## ノンタンに会いたい! 握手会&写真撮影会

ノンタンの着ぐるみとの写真撮影を行いました。ノンタンが現れると会場からは歓声と拍手。参加した子どもはノンタンにファンレターを渡したり、「ノンタン大好き!」と伝えたり、大人気でした。

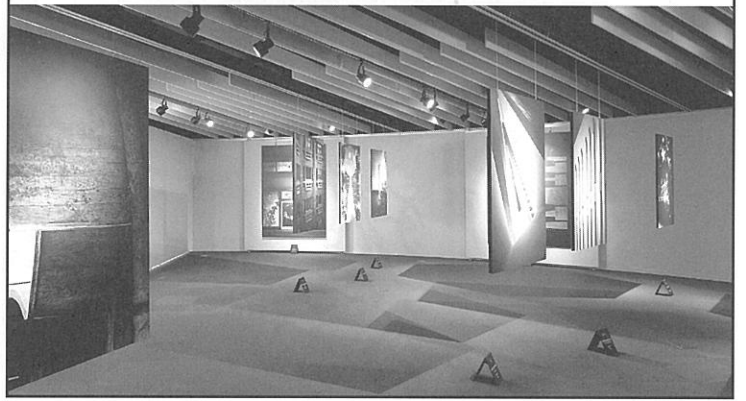


参加された 小倉南区在住の吉田さんご家族

アンケート

- ・ノンタンを小さい頃に親から読んでもらったことを思い出し、印象深い一日になった。(20代女性)
- ・ノンタンの絵本が出来上がるまでの過程、キヨノさんの子育てに対する考えも知ることができ、よかった。(30代女性)
- ・知らなかった本がいっぱいあって楽しかった。(8歳)
- ・いろんなノンタンに会えて嬉しかった。(5歳)

神は細部に宿る Der liebe Gott steckt im Detail



北九州のディテール展

4月5日～5月25日までの期間、特定非営利活動法人「創を考える会北九州」との共催により、「北九州のディテール展」を開催しました。

この展覧会は、本市に数多く存在する著名な建築家による近現代建築の文化的価値を、美しい写真と建築、歴史の学術的観点から改めて考察する試みとして企画され、昨年度の12月から1月にかけて、黒崎市民ギャラリーで開催し好評を得たものを、文学館に巡回したものです。

会場では、市内の建築の中から選りすぐった31点が、写真家、大森今日子氏による建築の細部(ディテール)に

焦点を当てたモノクロ写真と、建築家の古森弘一氏による企画構成、建築史家の倉方俊輔氏による歴史的考察を加えて紹介されました。磯崎新氏設計による当館も、展覧会の中でステンドグラスが紹介され、大きな存在感を放っていました。

照明が絞られた企画展示室に、浮き上がるように立ち並ぶ美しいモノクロ写真と、静かに流れ続けるスライドによる展示は、いつもの文学館とは一味違った雰囲気を感じ出していました。

建築という視点から本市が育んできた文化資産を市民の皆さんに広く知っていただき、また、北九州の美を五感で感じていただくまたとない機会になりました。

ギャラリートーク

「ディテールでみる近現代」

4月5日(土)・5月10日(土)  
北九州のディテール展のディレクターである古森弘一氏によるギャラリートークが行われました。

トークでは、北九州市内に点在する魅力的な建築物の歴史的意義に着目することにより、明治から現代に至る北九州の歴史や、我が国の産業経済発展のプロセスをひも解いていきました。

半世紀前、世界に例を見ない5市対等合併によって誕生した北九州市は、交通・物流の要衝であり、日本の近代工業の発展を牽引する街として、時代の最先端の文化の玄関口の役割を果たしてきました。建築の分野でも、一流の建築家を起用し今日まで大事に使ってきたという歴史があります。



このギャラリートークを通じ、北九州市全体が近現代建築のミュージアムでもあることを再認識するとともに、普段見慣れた建築物に秘められた物語や時代の系譜、関わった人々などに思いをはせることができました。

平成26年度(前期)

文学館セミナー

今年度前期の文学館セミナーは「書く」(創る)「読む」(話す)の4コースを開講しました。平成26年4月から10月まで、月一回全六回のクラスで、計63名の方が受講されました。

○「書く」コース(第一水曜日)  
講師 後藤みな子さん(作家)



「書く」講師 後藤みな子さん

講師 岸原清行さん(「青嶺」主宰、福岡県俳句協会会長)  
内容 俳句の基礎を句の紹介を交え、学びました。また季節に合わせて実作し、講評を受けました。



「創る」講師 岸原清行さん

講師 渡瀬淳子さん(北九州市立大学准教授)  
内容 「平家物語」巻九「一ノ谷合戦」を、当時の時代背景を交えながら、原文、口語訳を合わせて読解していただきました。



「読む」講師 渡瀬淳子さん

講師 江崎裕子さん(フリーアナウンサー)  
内容 好印象な自己紹介を目指して、伝わりやすく話すための基礎レッスンを行っていただきました。



「話す」講師 江崎裕子さん

## 子ども俳句講座

8月10日(日)

平成26年度は檜山荘子ども俳句大会が10回目を迎えるため、その記念事業の一つとして、夏休み子ども俳句講座を開催しました。講師は岸原清行さん(福岡県俳句協会会長、『青嶺』主宰)です。台風が接近し、あいにくの雨でしたが、4組9名の子どもと保護者が勝山公園で平和祈念の碑(長崎の鐘)や草花、昆虫等を観察し、俳句の季語を探す「吟行」を行いました。

俳句の基礎を学んだ後、吟行で感じたことを俳句にして発表し、最も良いと感じたものを一人二句選ぶ「選句」を行いました。瑞々しい感性を十七文字に込めた素晴らしい俳句がたくさん詠まれ、2句だけを選ぶことが難しいとの声が上がったほどでした。選者は作者に対して選んだ句の素晴らしい点を述べ、詠む楽しさだけでなく、選ぶ楽しさも経験でき、俳句が身近になったと参加者から大好評の講座となりました。



## 第一回 宗左近忌

詩人・宗左近の命日である6月20日、宗左近ファンクラブ(自見榮祐代表世話人)主催の「宗左近忌」が、北九州市立美術館本館の前庭、宗左近文学碑前にて執り行われました。天候にも恵まれ、約50名の方が宗左近を偲びました。

自見代表のご挨拶と北橋健治市長の祝辞があり、昨年の第4回「あなたに愛たくて生まれてきた詩」コンクール受賞者の戸畑中央小学校の大石寛子さん、牧山小学校の西村りんさんが碑前で詩を朗読しました。その後、地元・戸畑高校出身のシンガーソングライター・富永裕輔さんが、戸畑高校ブラスバンド部の演奏で「ひまわりの花」の献歌をされました。この歌はNHK北九州放送局が開局80周年を記念し公募した「きたきゆうのうた」でグランプリを獲得した歌で、北九州の先人たちの歩みの上にある今日の私たちに、市の花である「ひまわりの花」



宗左近碑の前で挨拶する自見榮祐さん

に喩えています。

詩と歌声が響いた初めての宗左近忌、これからも末永く続き、戸畑の方々に広く愛されてゆくことを願います。

また北九州市では郷土ゆかりの文学者を偲び、顕彰する集いが多くあります。今年度上半期に行われたものを紹介いたします。

○第三二回岩下俊作忌(4月13日、高炉台公園・岩下俊作文学碑前)

○第二九回劉寒吉碑前の集い(4月20日、文学館前・劉寒吉文学碑前)

○第五二回森鷗外を偲ぶ会(6月19日、紫川沿いの森鷗外文学碑前)

○第三三回林芙美子忌(6月22日、門司区の小森江西市民センター)

### 新資料紹介

宗左近 自筆原稿 千恵子への遺書

(未発表作品)

「KOKURA FUJIMOTO」製原稿用紙(20×20)25枚、以降は失われたと考えられる。想い人であった従妹・千恵子に宛てた書簡の体裁をとった小説で、「作品第一番」と記される。ノート等との照合から、書き始めたのは1941年の夏頃と推定。欄外書き込み多数、11頁には「30枚書き終るまで眠らないこと、書き終へたら二学期川端康成に会って俺の生涯の道を相談おし、教へを乞ふこと。」とある。

また、41年の日誌には「9月2日 上京の予定。車中、千恵子への遺書のこと許り考へ、メモすること、最後は古賀千恵子よさよなら、とすること」とあり、10月2日には「千恵子への遺書を毎晩書き続けてゆくことだ。このみ俺の生き甲斐はある、俺の青春をこめて書き上げよう」と書いており、本作への強い意気込みが感じられる。

宗左近の活字化された第一作は「高尾懺悔」(『護国会雑誌』2号 1941年11月)であるが、ほぼそれと同時に執筆と推定される。

2014年10月25日〜12月14日の「宙のかけらたち―詩人・宗左近展―」に出品予定。



# 宙ソラのかけらたち

2014.10.25sat ~ 詩人 宗左近 展 ~ 12.14sun

祈るとはその波になること

宇宙海

## 宗左近展紹介

北九州・戸畑に生を享けた詩人・宗左近は、詩、美術評論や翻訳など多彩な文芸活動を展開しました。生涯の著作は一〇〇冊に及び、日本の文芸史に大きな足跡を残しました。本展では宗の生涯と業績を振り返り、彼が遺した言葉を約200点の資料とともにご紹介いたします。

## 関連イベント

いずれも会場は北九州市立文学館、参加無料。②、③については要申し込み。

### ①【開会記念講話】

《講師》今川英子（北九州市立文学館館長）  
《日時》10月25日（土）11時～12時

### ②【講演会】

○三浦雅士さん講演会  
《講師》三浦雅士さん（文芸評論家）  
《日時》11月29日（土）13時30分～15時

○平出隆さん講演会  
《講師》平出隆さん（詩人・多摩美術大学教授）  
《日時》12月14日（日）13時30分～15時

### ③【文学講座】

《日時》《講師》

11月15日 稲田大貴（文学館学芸員）  
11月22日 加藤邦彦さん  
（梅光学院大学准教授）

12月6日 春野修二さん（美術家）  
④【学芸員によるギャラリートーク】

会期中の日曜日 14時～15時

詳しくは、文学館（TEL571・1505）にお問い合わせください。

## 資料寄贈者・提供者

赤磐市教育委員会熊山分室、阿木津英、一条真也、市場えつ子、伊藤比呂美、伊波静子、いよやよい、岩田暁子、江戸東京博物館、大岡信ことば館、大田区立郷土博物館、大佛次郎記念館、小田文比児、尾道文化協会、角田玉子、かごしま近代文学館、柏木恵美子、神奈川近代文学館、河野悦子、菊池寛記念館、木瀬照雄、久保山雅彦、熊沢里美、熊本近代文学館友の会、倉本昭、群馬県立土屋文明記念館、現代俳句発行所、後藤文利、佐藤充、事業構想大学院大学、舌間信夫、柴田智恵子、白根友吉、杉野元子、船団の会、宗香、高田杏子、鷹取美保子、多田孝枝、土肥光江、中尾三朗、永田喜久男、西田英樹、梅光学院大学学術情報センター、芳賀晟壽、萩原稔、波佐間義之、原安信、廣崎篤夫、藤康一郎、古川薫、北海道立文学館、松ヶ江郷土史会、三谷順、南川隆雄、森鷗外記念会、柳生じゅん子、山口公和、大和恵子、横手一彦、吉武千束、芳野元、わたなべじゅんこ

## 受贈雑誌一覧

藍、アヴァンティ、青嶺、赤とんぼ、馬酔木、花鶏、あん、いのちの籠、色鳥、海、沖、海峽派、北九州国文、九州作家、九州俳句、九州文学、九大日文、群炎、月刊俳句界、玄海、こだま、沙漠、七曜、自鳴鐘、人権の文化、船団、川柳くらがね、タルタ、天籟通信、菜殻火、虹野、八雁、ふだんぎ北九州、べだる、與謝野晶子研究



2014年10月1日 発行  
北九州市立文学館  
〒803-0813  
北九州市小倉北区城内4-1  
TEL 093-571-1505  
http://www.kitakyushucity-bungakukan.jp/

■ 開館時間 9:30~18:00 (入館は17:30まで)

※ 平成26年4月1日から  
平日の閉館時間が変更になりました。

■ 休館日

毎週月曜日(月曜日が休日の場合は翌日)  
年末年始



- JR小倉駅より徒歩15分
- JR西小倉駅より徒歩10分
- 勝山公園バス停より徒歩1分
- 北九州市役所前バス停より徒歩2分
- 小倉北区役所前バス停より徒歩2分
- 北九州都市高速大手町ランプより2分
- 駐車場は文学館最寄りの各有料駐車場をご利用下さい

## 北九州市 子どもノンフィクション文学賞

11月30日まで  
(消印有効)

小・中学生を対象に、身の回りで本当にあった話、自分の体験談や取材した真実の話を書いた「ノンフィクション」の作品を募集しています。400字詰め原稿用紙で小学生の部は5~20枚、中学生の部は5~50枚。詳しくは文学館まで。